

飯島賢二の『恐縮ですが...一言コラム』

第 344 回 2009 年を総括する！（経済）

2009.12.27

...先日、某銀行員から聞いた。今銀行は、住宅ローンのリスク（条件変更）の要請に、連日対応に追われているようだ。賞与が出ないのでボーナス払いができなくなったからである。...

2009 年はどんな年だったのか、今年 1 年を「経済面」から振り返ってみたい。

一言で言えば、我国経済は「激変=劇変」の一年だった。経済状況を判断する色々なデータがある。これらすべての数値が、2009 年は前年対比でマイナスだった。もはや物価も、そして家計の実質収入も、**20 年前の水準に戻った**といわれている。

国内総生産...実額である名目 GDP の値は、ずっとマイナスの状態

2006 年度の 510.9 兆円と比べると、**40 兆円**ほども国内全体での付加価値の合計が減っている。

デフレギャップ...現在わが国の経済は **GDP の約 7% = 約 35 兆円のデフレギャップ**を抱えており、今後もデフレが進行することが予想される。デフレの進行は、企業業績にも下押し圧力として働く可能性が高く、景気全体を冷やすことも懸念される。

現金給与総額...当然のことながらマイナス。給与が減り続けて、20 年前の水準。

給与が伸びないから、「消費支出」も伸びなくなる。**GDP の 55% 強**を支えているのが家計の支出だから、それに伴って GDP も伸びにくい状況が続いていた。

鉱工業指数 生産指数...2005 年を 100 として、2007 年度は 108.1 だったのが、2009 年 2 月には 69.5 まで落ちた。前年比でマイナス 38.4 で、これは、**戦後最大の落ち込み**。

粗鋼生産高...2008 年 10 月までは月ベースで 1000 万トンペースを維持していた。それが 2009 年 2 月の“底”では 547 万トンほどまで急減。

今回の景気後退は戦後最大の経済危機であったことは間違いない！

特にひどい業種は...

全国百貨店売上高...悲惨な状況。2006 年から前年対比ずっとマイナス。

建設工事受注...建設はすごく厳しい状態 2009 年 7 月は、前年比マイナス 42.8%ダウン

旅行取扱状況...2 年前の 10%ダウン、2009 年 6 月は前年比 26.5%ダウン

広告扱い高...広告業界、新聞業界、出版業界、テレビ業界など、マスコミ業界全般に大きく影響する数字 2009 年 2 月は前年比 20.6%ダウン

新車販売台数（国内）...2006 年 46.8 万台/月 2009 年 4 月 28.4 万台/月

輸出...まだ前年比マイナス 23.2 となっているが、“底”だった 2009 年 2 月の 35264 億円から考えると、10 月は 53085 億円まで回復。しかし、輸入のほうが外貨建てが多く、輸出は円建ての比率が多い。円高の影響で円換算をすると小さくなってしまう。

このように、輸出で経済を支えている日本にとっては、米国や中国経済の回復が頼みの綱だが、全体的に見れば、回復はするものの、踊り場の状態。このままでは 2010 年に、二番底を割る可能性があるかもしれないと予測される。

現政権にはダイナミック、かつスピーディな景気回復策は何もないと断言したい。無策を絵に描いたような政権が続く限り、来年 2010 年は、少なくとも、今年より更に厳しい年になるかもしれない。緊急の景気対策を、強く望みたい。大企業も中小企業経営者も、経営者は会社を潰すわけにはいかない。本気で、死ぬ覚悟で業態チェンジ（劇変）をしなければ、倒産の危険性はすぐ真近に迫っているといえるかもしれない。